

プログラム番号	06065
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人 電気通信大学 電気通信学研究科		
②学長名	益田隆司		
③所在地	〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	国際企画課 専門職員	
	担当者氏名	上田 美智子	e-mailアドレス ryugakusei-k@office.uec.ac.jp
	電話・FAX番号	電話：042-443-5114 ・ FAX：042-443-5116	
⑤ホームページ URL	http://www.uec.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	164人（うち、国費留学生 48人）		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	先端 <sup>ひかり</sup> 科学研究に基づく学位取得プログラム
②プログラムの形態	博士後期課程（3年間）
③実施研究科・専攻	電気通信学研究科 量子・物質工学専攻
	（所在地）東京都調布市調布ヶ丘1-5-1
④連携大学・研究科・専攻名	電気通信大学電気通信学研究科 電子工学専攻、情報通信工学専攻
⑤受入れ学生数	12人（うち研究留学生優先配置人数：3人） （うち日本人学生数：5人）
⑥担当教員数	合計 26人（うち専任：1人、兼任：24人、非常勤：1人）
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 電気通信学研究科・教授
	研究科長名 萩野剛二郎

### 【3. プログラムの内容】

#### 趣旨

電気通信大学では、2003年度に我が国で唯一の「光科学を中心テーマとする21世紀COEプログラム」である「コヒーレント<sup>ひかり</sup>光科学の展開」が発足した。その目的は、光科学技術を21世紀の基幹科学技術として発展させ、それを支える若手研究者・技術者を国際的な広がりを持って育成することである。量子・物質工学専攻を中核に電子工学専攻・情報通信工学専攻の3専攻が共同し、専攻横断的教育組織「コヒーレント<sup>ひかり</sup>光科学コース」を設立し、博士後期課程の教育を実施している。

本プログラムの趣旨は、上記の「コヒーレント光科学コース」の教育に優秀な留学生を系統的に参加させる道を開くことである。「コヒーレント光科学コース」の教育に「研究留学生特別プログラム」を組み込むことにより、意欲・能力ある留学生と日本人学生が博士の学位取得を目指して切磋琢磨する環境を大きく発展させることを目指す。更に、21世紀の光科学技術を支える日本を中心とする国際的人的ネットワークの基盤を形成することも目指す。

#### 内容及び特色

本プログラムは博士後期課程のプログラムであり、その眼目は自発的研究力と国際的な視野を持つ有為な研究者を育成することである。博士の学位取得を目指して留学生と日本人学生が切磋琢磨する国際的な環境を構築することが大きな特色である。21世紀の基幹科学技術と位置づけられる光科学技術を世界レベルの研究環境の中で学ぶ機会を与えることも重要な特色である。更に、伝統的な専門の枠組みを越えた学際的な広がりを持つ専攻横断的な教育環境の中で学ぶ場を提供することも大きな特色である。

本プログラムは、諸外国の若者に日本の先端研究に参加し学び研究する中で博士の学位を取得する機会を与えるものである。とりわけ、アジア地区の意欲・能力ある留学生にとってはその将来の展望を切り開く新しい場を提供するものでもある。

本プログラムでは研究留学生以外にも様々なチャンネルにより意欲ある留学生を受け入れる。各種財団や本学独自の経費により留学生の支援を行う。受入れ留学生の能力の発展に応じて研究留学生への選考対象者として考慮する。

#### 教育・指導体制

##### カリキュラム

コヒーレント光科学コースでは量子・物質、電子、情報通信の3専攻の光科学技術関連カリキュラムを総合的・相補的に整備し、現代の先端的研究につながる光科学の系統的なカリキュラムを準備している。様々な国々から入学する留学生が先端研究に依拠する学位取得プログラムにスムーズに対応できるよう、講義科目には基礎的な視点からの科目も準備している。なお、本プログラムにおける講義の実施は英語開講を基本とする。

## 指導体制

研究指導は2名の指導教員体制（主任指導教員、指導教員）をとり学際的な幅広い視点からの指導を行う。研究室でのゼミや輪講などは英語で行うことを基本とするが、博士後期課程のみならず前期課程や卒業研究の日本人学生との積極的な交流を目指して、日本語による交流も積極的に奨励する。なお、本プログラムでは専任の外国人准教授1名を配置し、講義・研究指導と共に様々な問題にもきめ細かく対応する。

## 自主活動

専攻の枠を越えた「<sup>ひかり</sup>光セミナー」や研究発表会を実施する。運営は基本的には留学生と日本人学生が共同で行い、フランクな共同作業・交流の中で相互理解を深める。また、セミナーや研究発表会での自由な議論を通して相互の研究の理解を深め、新たな独創的な発想を育てる環境を準備する。公式言語は英語であり日本語を補助的に用いる。

## 日本語・日本文化

日本語会話や日本文化になじむことは、留学生が学位取得後に活躍する場の幅を広げる意味でも極めて重要である。本学においては国際交流センターが留学生を対象に日本語会話習得や日本文化に触れる活動を系統的なコースを設け実施している。本プログラムに参加する研究留学生にも、そのコースへの参加を奨励する。

## **使用言語**

教育面で使用する公式言語は英語を基本とするが、日本語による交流も積極的に奨励する。

## **募集方法・募集対象国**

本プログラムへの募集は海外に設けた推薦拠点大学を重点におこなう。推薦拠点には推薦責任教員を指定し、推薦責任教員の推薦を有する応募者を優先的に選考対象者とする。推薦拠点以外からも、十分に信頼できる推薦を受けた者については選考対象とする。

募集対象国は基本的には全世界であるが、アジア諸国からの意欲・能力ある留学生を積極的に受け入れる。

## **選考方法**

対象学生の所属する大学等に面接委員（少なくとも1名）が赴き、他の面接委員はTV会議等を併用して本学から参加して面接を実施することを基本とする。ただし、文科省短期留学プログラム JUUST 留学生などで対象学生の能力が既に把握がされている場合については、TV会議等による面接のみで認めることとする。TV 会議等の面接が困難な場合には電子メール等による面接相当のインタビューを認めることとする。

ただし、渡日が可能な学生に対してはこの限りではなく、極力渡日を促して本学で面接を実施することとする。